



[今月の聖書]

イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。(ヨハネ 3:5)

「祭の終りの大事な日に、イエスは立って、叫んで言われた、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう。」

(ヨハネ 7:37, 38)

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。」(ヨハネ 14:16, 17a)

「わたしが父のみもとからあなたがたにつかわそうとしている助け主、すなわち、父のみもとから来る真理の御霊が下る時、それはわたしについてあかしをするであろう。」(ヨハネ 15:26)

「しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。もし、キリストがあなたがたの内におられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに生きているのである。もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かして下さるであろう。」(ローマ 8:9-11)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「助け主が来る時」と題して聖霊の働きについてお話しいたします。2月より希望の言葉聖書と言うテーマで、聖書の大事なメッセージを取り上げてきました。最後のテーマは聖霊の働きです。父なる神、子なるキリスト、聖霊なる神が3つの異なる表現を持ちながら1人の神であると言う「三位一体論」は聖書の表す大切なテーマです。旧約聖書ではルアハ、新約聖書ではプニューマという言葉が使われています。それは風とか、息とかと言う意味です。新約聖書ではヨハネとパウロが聖霊の働きについて定義付けをし、強く語っています。イエス様は最後の晩餐で、この聖霊は「助け主(プニューマ)」であって、信徒である私たちの信仰を保ち、イエス・キリストを明らかに見せ、あらゆる迫害と苦難の中にあって守ってくださるお方であると語られました。本当に困った時、ひたすら神様に助けを祈り、危機を脱出した経験は無いでしょうか。私は幾度も決定的な行き詰まりを覚えたとき、祈りのうちに神様が道を開いてくださいました。振り返ってみるとあれはパラクレートスだったのです。あなたのそばにいてくださるお方、あなたの心の内を満たしてくださる方、あなたの叫びと祈りを天に届けてくださるお方、それは聖霊です。この助け主なる聖霊を聖書からしっかり理解し心の内にお迎えになるようにお勧めします。祝福が豊かにありますように。

(お知らせ)

\* 地区集会のご案内

1 1月12日(火) 13:00 CFI 横浜集会(福音喫茶メリー TEL 045-231-6773)

1 1月20日(水) 11:00 水曜礼拝、14:00 ジョイユース(自由が丘チャペル)

\* 1 1月11日(月) 19:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会(淀橋教会)

\* 1 2月7日(土) 15:30 メリークリスマスイン青山が今年も開かれます。ぜひおいでください。

(青山学院内グローリーチャペル チケット 1000円)

\* 2020年2月29日(土) 13:30 メサイア 2020 紀尾井ホール

## (一)

一、キリストは十字架に死に給うたが、死にうち勝つて復活昇天し、永遠界に復帰し給うた。この故にこそすべての時空界に属する信仰者の贖罪も聖化も永遠に妥当するのである。それは復活の主と御霊と天父との「三位一体的な経綸」の業である。

二、地上においては「聖霊」が天父に対して我々の執成しをなし、天上においては「霊のキリスト」が同じく天父に対して我々の罪の執成しをなし給うという二重的パラクレートスのゆえに我々に「新しい生命」が与えられ、我々の聖化が可能なのである。

三、現在におけるクリスチャン・ライフはすべてパラクレートスともなる生活、パラクレートスによる聖化の生活でなくてはならない。

## (二)

ルーベン・アーチャー・トーレー博士(一八五六一—一九二八)は米国の組合教会派の有名な伝道者であり、ムーディの後継者としてムーディの素朴な神学を学問的に基礎づけた人であった。エール大学、エール神学校を卒業したのち、ライプツィヒ、エルランゲンなどの大学に学び、帰国後はシカゴのムーディ聖書学院の教授、またムーディの教会のシカゴ・アヴェニュー教会の牧師にもなった。ムーディが讃美歌作者のサンキーと一緒に全世界を伝道したように、トーレーも讃美歌作家のチャールズ・アレクサンダーとともに、今世紀の初頭、オーストラリア、インド、英国、カナダなど全世界にわたって伝道旅行をして歩いた。本邦にも来朝したことがある。トーレーの立場は、きわめて保守的であり、多くの著書を著わしているが「聖書は何を教えるか」(一八九八)および「聖霊論」の諸著作は有名であり、ドイツ語にも幾冊も訳されている。

トーレーが世界伝道の途中、スコットランドのグラスゴウ市の聖アンデレ・ホールでパラクレートス、すなわち「聖霊」について語っていると、閉会后、一人の婦人が進みでて云つた。

「今のお話は本当に私の慰めになりました。実は、今日が私の主人の一周忌なのです。ぜひ、宅までいらつしやつて、もう少しお話していただけませんかでしょうか。私の淋しさが癒されると思いますから。」

## (三)

そこで彼女の家にいつてさらに語つた。

「聖書には、△聖霊▽のことが四回、△キリスト▽のことが一回、パラクレートス(助け主、旧訳ではなくさむるもの)として記されており、  
『父は別に助け主を送つて、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう』(ヨハネによる福音書一四ノ一六)  
『助け主、すなわち父が、わたしの名によつてつかはされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教えるであろう。』(ヨハネによる福音書一四ノ二六)

『わたしが父のみもたらあなたがたに遣わそうとしている助け主、即ち、父のみもたら来る真理の御霊が下る時、それはわたしについてあかしをするであろう』(ヨハネによる福音書一五ノ二六)  
『わたしが去つて行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去つて行かなければ、あなたがたのところ、助け主は来ないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。それが来たなら、罪と義とさばきについて、世の人の目を開くであろう』(ヨハネによる福音書一六ノ七一—七八)

この四回は聖書のことをパラクレートスと云つておりますが、他の一回の

『もし、罪を犯す者があれば父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち義なるイエス・キリストがおられる』(ヨハネの第一の手紙二ノ一)

は復活の霊のキリストのことを云つています。パラクレートスとは元来△法延に呼ばれて援くる人▽即ち弁護者のことです。旧約時代には神の御霊が預言者やイスラエル民族のパラクレートスでした。キリスト在世当時はキリスト御自身が弟子たちのパラクレートスでした。キリスト昇天後は、ふたたび御霊が弟子達や後代の人々のパラクレートスをなしています。

それで聖書によると、現在、私達のパラクレートスをなすものは△御霊▽と△キリスト▽との二者です。地上のパラクレートスは聖霊です。天上のパラクレートスはキリストです。聖霊は地上で人の執成しをなし、キリストは天上で父に対して我々の罪の執成しをなし給うのです。そしてさらに天父は根源的に働いて聖霊によつて人をキリストに結びつけ給うのです。この超越的内在的な先行連繋関係があるので、私たちは神を認めることが出来るのです。このように御霊—キリスト—天父には、内的融合的な統合的關係があるので、これを神学的には三位一体的關係と申しております。

このパラクレートスは抽象的な力ではなくて、人格そのものです。キリストが天父にこうて与えられる永遠の現在者です。しかも今はキリストと聖霊とにおいて二重的に働いています。△キリストのいますところには聖霊もいまし、聖霊のあるところにはキリストもいまし給うのです。あなたがどんなにお淋しくても△永遠の現在者▽のパラクレートスは必ずあなたを慰めて下さいます。」

トーレー博士は聖霊について細かにその婦人に説明したのちにその家を辞した。一年半の後に、トーレーがヨットに乗っていると、一隻のボートが近づいて来た。誰かと思つてよく見ると、それはかの婦人であつた。

「先生、いっぞやは全くありがとうございます。あれ以来御霊の慰めですっかり私の気持が回復いたしました。もう少しも淋しくありません。御霊は本当にパラクレートスです。」  
そう云つて彼女はトーレーに心から感謝の言葉をのべたのである。

## (四)

- 一、神は御霊により御自身と人とを結び給う。
  - 二、神は御霊により人に「新しい生命」を与え給う。
  - 三、神は御霊により人を聖化し給う。
  - 四、神は御霊により御自身を顕示し給う。
  - 五、神は御霊によりイエスの主なることを示し給う。
- 『父なる神と子なる神はともに聖霊の根源である』(バルト)

## 新しい生命に関する四十八章

—キリストによる信仰生活のしおり—